

漢字のでき方については、昔から次の四つにまとめられている。

象形 形を象(かたど)るという意味の字で、形のあるものについて、それをスケッチふうを描いた、言わば絵文字である。

例 日・月・山・川

指事 形を備えていない抽象的な事からについて、その事を符号的に指(さ)し示すという意味のことばである。

例 一・二・上・下

会意 意味を会わせるという意味のことばで、象形や指事では表わせない事からや深い思想を、二つ以上の象形・指事字の組み合わせによって表わしたもの。

例 明・休・信・東

形声 形と声との両面を備えた文字という意味のことばで、形とは実体、つまり意味を、声とは発音をさす。表意の部首と表音の部首とから或る。

例 儉・険・検・験

象形・指事が基本で、それを組み合わせたのが、会意・形声である。

このうち、形声は漢字全体の 90 パーセント以上を占めているので、漢

字学習の秘訣は形声文字の学び方にあるとすることができる。

漢字を、その本義と異なった意味に使うことがある。これを転注・仮借^{カシヤ}と呼び、象形・指事・会意・形声と合わせて“六書^{リクシヨ}”と呼んでいる。

転注 車が転々^{カシヤ}とところがって元の所から離れ、川が流れ流れて海に注ぐように、漢字の本義が移ることを表わしたことばである。

例 “楽”は楽器の象形で、“楽器”が本義だが、楽器によって演奏される“音楽”という意味に転ずる。また、音楽を聞けば“楽しい”ので、“快樂”という使い方が生まれた。

仮借^{カシヤ} 漢字の本義に関係なく、その発音を仮に借りるという意味のことばで、そのことばをうまく表わせない場合に代用として行なわれるものである。

例 数字の十を表わす文字がうまく作れないので、同音の“十”(針の本字で針に糸を通した象形字。音はシン。数字の十も古くはシンであった)”を借りてこれを表わした。(そのため“はり”は金を加えて針となった)

拾(ひろ)うを数字の十^{ジュウ}の意味に使うのも仮借である。